



第27号  
 2026年(令和8年)1月1日  
 発行 一般社団法人  
 茶道裏千家淡交会いわき支部  
 鈴木宗恵方 ☎0246-22-8764  
 編集 総務委員会

### 年頭のご挨拶



いわき市長  
内田 広之

令和八年の年頭にあたり、謹んで御挨拶を申し上げます。

一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部の皆様におかれましては、茶道文化の継承、発展のため、『支部茶会』や『ふだん着の茶会』の開催等を通じて、市民の皆様により機会を御提供いただき、本市の文化芸術の振興に多大な御貢献をいただいておりますことに、心より敬意を表します。

「茶道」は、古来の風習や習慣、地域の風俗などを継承し、日本のさまざまな伝統文化を集成した総合芸術であり、人と人との結びつきを深め、心の交流を図るなど、日本の「おもてなし」の精神にも繋がるものであると考えます。今後も茶道に携わる全ての方々に、心安らかで、何物にも代えがたい

充実した時間がもたらされますことを、期待申し上げますとともに、この新しい年が、「茶道」を通じて多くの方々とのご縁を結ぶ実りのある一年となりますことを心より願っております。

市といたしましても、地域の皆様が豊かな文化に親しみ、それを未来に継承し、発展させ、誰もが郷土に誇りと愛着を抱いていただけるよう、魅力的なまちづくりを推し進めてまいります。皆様には、今後におきましても、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部の限らない御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

### 年頭のご挨拶



いわき支部長  
村田 裕之

令和八年を迎えるにあたり、支部会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より支部の活動に深いご理解と温かいご協力を賜り、心より御礼申し上げます

昨年は、裏千家第十五代御家元 鵬雲斎宗匠がご逝去されるといふ、誠に哀惜の念に堪えない出来事がありました。生涯を通じて茶道の精神を世界に弘め、「一盃からピースフルネスを」のお言葉のもと、国際親善と人づくりに尽くされた宗匠のご功績に、改めて深甚なる感謝と追悼の誠を捧げたいと存じます。私どもは、その遺志を胸に、これからも茶道を通じた心の交流を大切に歩みを進めてまいります。

さて、支部では昨年度も次代を担う人材育成と地域への茶道普及を柱に、さまざまな取り組みを行ってまいりました。五月には青年部の会員増強を目的とした「みらい

茶会」を開催した結果、青年部の部員が増加しました。積極的な行動が結果に結びついたことに敬意と感謝を申し上げます。また、十一月にはいわき秀英中学校の一年生向けに、学校茶道の先生方が講師となってお茶の「出前講座」を開催しました。初めて抹茶を点て、いただく体験を通して、礼を重んじる心や日本文化の奥深さを伝えることができました。

今年はいオンモールでのお茶会でのスタートとなりました。初めての取り組みですが、多くのお客様に「お茶」を知っていただけたと思います。

今年もいろいろとチャレンジしてまいり所存ですので、皆様にはご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



## 年頭のご挨拶



副支部長

田村 哲朗

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素より支部活動に対し格別のご理解とご支援を賜っておりますこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は私どもが長年仰ぎ、導きを頂きました十五代お家元鵬雲齋宗匠さまがご逝去されるという誠に痛恨の念に堪えない出来事がありました。ここに謹んで追悼の誠を捧げ心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、昨年各地において地震や豪雨、山林火災などの自然災害が相次ぎ、多くの方が今も不安な日々を過ごしておられます。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く平穏な日常が戻りますことをお祈りいたします。

十五代お家元が生涯を通して示いただいた茶道の精神と深い教えは、今なお私どもの心に息づいております。一服のお茶を通して人と人が心を通わせ、静かな安らぎを分かち合うという茶道の心はこのような時代こそより大切にすべきと存じます。

本年も「一盃からピースフルネス」の精神をもとに、皆様とともに地域に根差した支部活動を目指してまいります。

私自身も現在このように茶道とかわらせて頂く機会を頂いていることに関し、感謝申し上げますとともに、諸先生方には、今後ともご指導頂きたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の今年一年のご健勝とご多幸をご祈念致しまして新年のご挨拶と致します。

## 年頭のご挨拶



副支部長

石田 全史

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

支部会員の皆さまにおかれましては、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は支部活動にしまして格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、鵬雲齋宗匠がご逝去されるという、誠に大きな節目の年となりました。私自身、鵬雲齋宗匠には物事に向き合う姿勢や人と人とのつながりを大切にする心を学ばせていただきました。

鵬雲齋宗匠が生涯を通じて掲げてこられた「一盃からピースフルネス」という理念は、茶道が単なる伝統文化にとどまらず、人の心を和ませ、対話を生み、世界の平和へとつながっていく力を持つことを私たちに示してくださいました。欧州や中東だけでなくアジアにおいても国際

情勢が不安定さを増し、対立や分断が顕在化する今だからこそ、一盃の茶を通じて相手を思いやり、心を通わせるといふ宗匠のお言葉の重みを、改めて強く感じております。

本年も、副支部長として微力ながら茶道の研鑽と支部活動の充実に努め、鵬雲齋宗匠の遺された精神を次世代へとつないでいく一助となるよう精進してまいります。

皆さまにとりまして、本年が穏やかで実り多き一年となりますことを心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 年頭のご挨拶



幹事長

鈴木 宗恵



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、裏千家淡交会いわき支部の活動に格別のご協力とお力添えを賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は鵬雲齋宗匠様をお見送りする年となり、宗匠様の残して下さった教えを改めて心に刻む一年でございました。「一盃からピースフルネスを」のおことばを胸に坐忘齋お家元様のご指導のもと、支部一同力をあわせてより一層の精進を重ねて参りたいと存じます。

現在のいわき支部におきましては、長年にわたり支部を支えてこられた諸先輩方のご尽力により、円滑な活動を行うことが出来ております。一方で、次の世代を担う若い方々の参加が少なく、世代のつながりをごのように広げてゆくかが今後の課題となっております。そのような対策の一環として、昨年は青年部育成委員会開催の「みらい茶会」を通し、親先生が

お弟子さんたちと一緒に参加して頂き、青年部への新たな入会者を増やすことができました。今年もこのような親と子の交流の場を大切にしながら支部の活性化に努めて参りたいと思います。

また、今年の主な行事と致しまして、五月二十三日、二十四日の両日、「東北のつどいin福島」が県内四支部主管のもと、飯坂温泉のパルセ飯坂、吉川屋において開催されます。いわき支部は薄茶席を担当予定です。

本行事は坐忘齋お家元様を中心に県内四支部の会員が一堂に会し、親睦と交流を深める貴重な機会となっております。多くの会員の皆様のご参加ご協力をお願い致します。

本年も支部の輪を大切にしながら、互いに学び、支えあえる場を育んで参りたいと存じます。

皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます、年頭の結びと致します。

## 支部茶会を終えて

濃茶席担当/木田 宗享

秋も深まり、澄んだ空気に包まれた令和七年十一月二十三日(日)、いわき産業創造館(ラトブ)において支部茶会が開催されました。今回私は濃茶席を担当させていただきました。今年一年を振り返る節目の時期、未来へ進む心構えを意識する時期でもあることから、「関」を題材といたしました。特に、長きにわたり私たちの茶の道を照らし続けてきてくださった鵬雲齋宗匠への感謝と敬意の思いを込め、宗匠ゆかりの作や箱書き、好みの道具等を用いて席中を表現してみました。

床の間には宗匠筆の「露堂々」と坐忘齋家元作の竹花入れを合わせ、静かな中にも深い思いを表しました。各服点では一人分のお茶を練る



ことに苦心しましたが、お客様に美味しく服していただけたことに安堵し、心温まるひとときとなりました。今回の濃茶席を通して道具組の難しさを改めて実感し、茶の奥深さを学ぶ機会ともなりました。

多くのお客様に足を運んでいただき、また薄茶席の担当の方には案内誘導にご協力いただき、濃茶席お手伝いの皆様にも少人数ながらも一所懸命それぞれの役割を果たして下さったおかげで、お茶会は成功裏に終えることができました。支えて下さった皆様への感謝の思いが、心に深く刻まれた一日となりました。



# 支部茶会お薄席にて

松林宗麗社中／高玉 宗輝

十一月二十三日いわき産業創造館(ラトブ)で支部茶会が開催され、私はお点前を担当させて頂きました。

鵬雲齋汎宗室が八月にご逝去されました。東日本大震災の翌年には福島県に来て下さり、その時に「ひとりじゃないよ、みんな一緒だよ」と中森じゅあんさんの詩を朗読して励まして下さいました。今回、鵬雲齋宗匠を「偲び」つつの茶会となりました。

お床は、坐忘齋御家元の「無事」、主茶碗は鵬雲齋宗匠が文化勲章を受章した折りの「橘」でした。替茶碗は、席主が総会の懇親会の福引で当てた「青天馬」ご披露でき



て喜んでおりました。

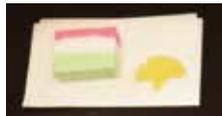
お茶銘は丸久小山園「清浄の白」。お菓子は俵屋吉富「錦秋と銀杏」の二種でした。

席主は「偲ぶ」のおもいを入れた席にされました。席中のお菓子にも、懐紙の折り方が普段と違い私も初めて気づきました。

点前中は、電気のお釜調節がむずかしいなうと思えました。当日は、色々話し合う事で初めての方たちとは思えない程、よいチームワークができました。お茶の力つてすごいと思えました。

いわきでの支部茶会。片道二時間のドライブ(疲れました)いわき泊、初めてづくしでしたが無事終える事が出来ました。

席主の村田先生始め、役員の皆様、社中の皆様感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 令和 8 年度の主な行事予定



- 1月 6日(火) 茶道裏千家新春呈茶の会 in イオンモールいわき小名浜  
イオンモールいわき小名浜 2階 マリンコート
- 2月 15日(日) 第 32 回(令和 8 年度)定期総会及び懇親会  
いわきワシントンホテル 椿山荘
- 4月 18日(土) ~ 19日(日)  
研究会(炉) いわき産業創造館(ラトブ)  
18日(土) 終身正会員以上  
19日(日) 終身師範会員以上
- 5月 23日(土) ~ 24日(日)  
東北のつどい in 福島  
パルセいいざか、吉川屋
- 6月 13日(土) ふだん着の茶会  
いわき市生涯学習プラザ茶室
- 6月 27日(土) 研究会(風炉)  
いわき産業創造館(ラトブ) 終身正会員以上
- 9月 27日(日) 月釜茶会(青年部)  
いわき市生涯学習プラザ茶室
- 10月 4日(日) いわき市茶道市民合同茶会  
いわき市文化センター
- 10月 17日(土) ~ 18日(日)  
研究会(風炉) / いわき産業創造館(ラトブ)  
17日(土) 終身正会員以上  
18日(日) 正会員以上
- 11月 14日(土) ふだん着の茶会  
いわき市生涯学習プラザ茶室

### 編集後記

あけましておめでとうございます。昨年中は、様々な支部活動にご協力いただきありがとうございます。

今年も、今年「躍動」「成功」「勝負運」を象徴する干支とさせていただきます。

会員の皆様と共に、新しい挑戦や発展、幸運が駆け込む活気ある一年となりますようお祈りいたします。本年も、どうぞよろしくお祈り申し上げます。